

10 く り

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	階級割合
銀 寄 岸 根	250kg以上	90%以上	2L 80%以上

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標（10a 当たり）

項 目	
①出 荷 量(kg)	225
②販売単価(円) ※1	1,057
③粗収益(円)	237,825
④経営費(円)	162,133
⑤農業所得(円)	75,692

※1 令和2年～令和5年の平均単価

ア 販売価格の推移

(単位:kg当たり円)

年次	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5
価格	676	954	965	794	884	890	744	1,292	1,105	1,089

(H30 まで:全農山口扱い、R1～: J A山口県扱い)

イ 経営費の内訳

(単位:円)

経営費の内訳	金 額	備 考											
肥 料 費	45,098	・販売費用内訳 <table><tr><td>包装資材費</td><td>3,375</td></tr><tr><td>選果経費※2</td><td>13,950</td></tr><tr><td>運賃</td><td>7,875</td></tr><tr><td>手数料</td><td>26,161</td></tr><tr><td>合計</td><td>51,361</td></tr></table> ※2選果経費は、燻蒸料及び冷蔵料を含む		包装資材費	3,375	選果経費※2	13,950	運賃	7,875	手数料	26,161	合計	51,361
包装資材費	3,375												
選果経費※2	13,950												
運賃	7,875												
手数料	26,161												
合計	51,361												
農 業 薬 剤 費	22,006												
光 熱 動 力 費	5,380												
諸材料・小農具費	5,700												
償 却 費 ※1	27,766												
販 売 費 用	51,361												
管 理 費 用	1,462												
修 理 費	3,360												
合 計	162,133												

※ 雇用労賃は、未計上

※1 減価償却費は、くり栽培 1.0ha の経営とした場合を想定し算出

ウ 投下労働時間（10a 当たり時間）

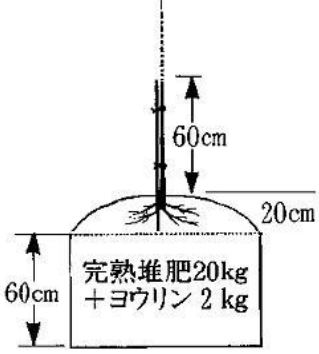
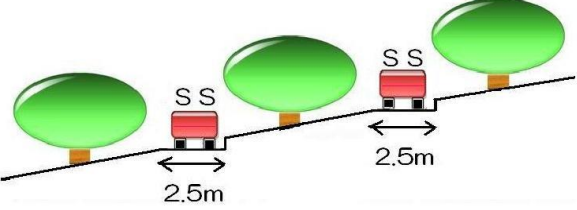
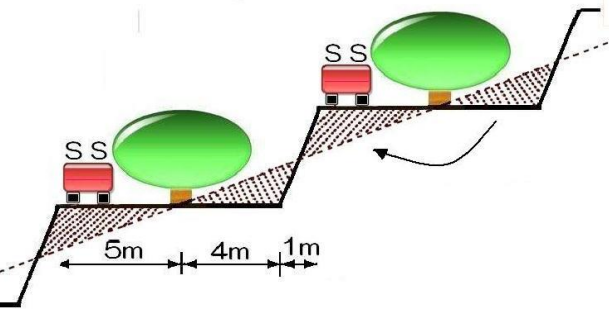
(ア) 月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
6.0	2.0	—	1.0	3.2	2.6	4.6	6.6	12.0	6.0	2.0	4.0	50.0

(イ) 作業別労働時間

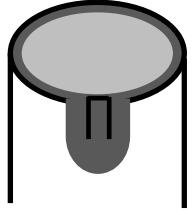
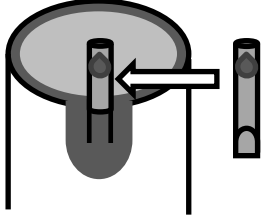
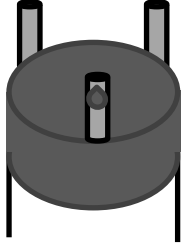
整枝せん定	草刈	防除	施肥土壌改良	収穫出荷	計
12.0	5.0	5.0	8.0	20.0	50.0

(3) 重点推進事項

事 項	推 進 内 容
1 老木の改植	1 20年以上の老木は思い切って改植を行う。 2 苗木は健全なものを用い、できれば自家育苗、産地育苗する。購入する場合は信用ある業者から入れる。 3 苗木の植え付け方法 (1) 植穴は幅1m、深さ60cmを基本とする。排水不良地は排水を考慮した植穴とする。 (2) 植穴の下層には完熟堆肥20kg、ようりん2kgを土と混和し、沈み込むことを考慮して20cm程度盛り上げるようにして植え付ける。 (3) 植え付けの際、深植えとならないよう留意する。 (4) 植え付け後は十分に灌水し、発芽期までの乾燥に気をつける。 (5) 苗木は地際から60cmの高さに切り返す。 4 植栽間隔は、画密植の場合5m×5m（植栽本数40本／10a） 5 交配樹は、20%以上混植する
	 図1 植え付け図
2 園地の整備	1 全ての園地にSS防除の可能な作業道を整備する。 2 傾斜地(8～15度)では、図2のような作業道を設ける。 3 急傾斜地(15～25度)では、図3のようなテラス畑として作業を容易にする。 4 園内作業道に接続する農道を整備する。
	 図2 傾斜地(10度)の例
	 図3 急傾斜地(20度)の例

事 項	推 進 内 容
3 低樹高化の推進	1 密植園の間伐促進 計画密植園で10a当たり40本植であれば、成園時に20本となるように間伐する。 植栽時 40本/10a 交配樹を計画的に配置。 (20%以上) 5～7年後に25%を間伐する。 8～10年後に残りを間伐する。 間伐完了 20本/10aとする。 ● 主要品種 ■ 交配樹 縮伐・間伐のめやす 間伐・縮伐樹 1m 永久樹 1m 永久樹と間伐樹の間隔は 1mを保つよう縮伐する。 図4 間伐の進め方 2 新植・改植の低樹高化 (1) 苗木からの仕立て方 ア 樹齢4年生までは主幹形に仕立て、4年生以降は将来主枝候補となる下枝に光が当たるよう主幹中央部の枝抜きを行い、芯抜きの準備期間とする。 イ 5年生以降8年生までに主枝の芯抜きをして、主枝2～3本残し、樹高4m以下の開心自然形に仕立てる。 ウ 傾斜地では斜面上側に向かって、オールバックに仕立てる。 エ その後は主枝には亜主枝を構成し側枝をつけ、樹高を維持するよう側枝の更新剪定を行い、採光を良くしながら結果部の強化と維持を図る。 オ 整枝に当たっては、枝の発角度の広いものを残すようにする。 主枝候補の確立 芯抜きの準備期 芯抜き後 植え付け 1年目 2～3年 4～6年 7～8年 3～4m 図5 幼木からの仕立て方法 4～6年 7～8年 3～4m 図6 傾斜地の仕立て

事 項	推 進 内 容
4 カットバック 高接ぎ	(2) 既存の樹形改造 ア 下枝に充分光が当たるように上部の枝を間引き、2m程度の間隔を保つ。新梢の発生を促し、下枝で良質な結果母枝が得られるようになるまで主幹上部の枝をある程度残して収量確保に努める。 イ 下枝で母枝が確保されるようになってから、主幹延長枝を剪除し、低樹高の樹形とする。(図7参照) ウ 成木で樹高が高い場合には3.5mを目標に切り下げを行う。切り下げる場合には、太枝が発生している位置までとする。良い位置に太枝がなければ、養成し順次切り下げる 図7 既存樹の低樹高化 3 成果の概要 (1) 本ぼ定植3年目と4年目の収量が400kg/10a以上 (2) 定植から4年間の収量が900kg/10aであり、慣行栽培(5×5m)の7倍 (3) 定植4年目までの、販売金額－資材費＝25万円/10a(試算) ※ 資材費は苗木、土壌改良資材、肥料及び農薬代(平成19年価格) 4 留意事項等 (1) この方法は新改植における未収益期間の短縮に有効で、苗ほでの大苗育苗により、かん水等の集中管理が可能となる。 (2) 受粉樹(約20%)も大苗育苗と密植栽培を行う。 (3) 肥料は施肥基準(別ページ参照)程度に施用する。 (4) 4×2mの密植栽培では、5年目頃から縮伐を実施し、6年目頃に4×4mに間伐する。 (5) 特に樹勢が強く、新梢の発生が少ない品種で効果が高いと考えられる。 成木の主枝や亜主枝などの周囲長40～60cm太い枝を切り落とし、その切り口に、周囲長10cm当たり穂木1本を剥ぎ接ぎする方法(カットバック高接ぎ)により、抜根せずに簡単に品種更新できる。 1 実施時期 3月から4月の間であればいつでも良い。 2 接ぎ木方法 切り口が大きくなるほど接ぎ木活着率が低下するので、切り口の周囲長は40～60cmとし、切り口の周囲長10cm当たり穂木1本を接ぎ木する。 ①周囲長40～60cmの太枝を切る。

事 項	推 進 内 容
	②樹皮が厚いので接ぎ木部分の皮を削って薄くし、穂木の幅と同じくらいの幅で切り込みを入れる。  ③皮をめくり、穂木を差し込む。  ④太枝の切り口に癒合剤を塗り、アルミホイルを貼りつける。  4 接ぎ木後の管理 月に1～2回の頻度で接穂以外から発生した台芽はすべてかぎ取る。台芽は春先に多く発生し、夏以降は発生が少なくなる。また、年を重ねるごとに発生量は減少してくる。 5 その他 早期に収量を確保するために、カットバック高接ぎと同時に樹の間に苗木を植える。将来的には、植えた苗木の方を永久樹として使用する。
5 「ぼろたん」の植栽計画	1 植栽のポイント 「ぼろたん」は渋皮剥皮性を有する品種であり、有利販売のため品種別収穫が必須となる。既存園に植栽すると、異品種が混入した「ぼろたん」が販売され、剥皮できないことが問題となる。このため、以下のことに留意する。 (1) 異品種との混入を避けるため新改植を基本とする。 (2) できる限り収穫時期の重なる品種と混植しない。 (3) 高接ぎでは、台木品種の新梢が残らないよう注意する。 2 受粉樹の混植 (1) 受粉樹は約20%程度混植する。 (2) 受粉樹は、「ぼろすけ」等剥皮性のある品種または、収穫期の異なる品種例えば「石鎚」または「岸根」を選定する。 (3) 品種別収穫が効率的に行えるように植栽する。

事 項	推 進 内 容
	3 植栽例 ■植栽例1 (5×5m) 受粉樹 22% 1次間伐 (5×10m) ■植栽例2 (5×5m) 受粉樹 27% 1次間伐 (5×10m) 受粉樹 22% 受粉樹 27% 受粉樹 40% 受粉樹 33% ○ぼろたん ◎受粉樹
6 良質な結果母枝の確保	1 良質な結果母枝の形質 基部の太さ7～8mm以上で充実したもの 2 確保するための管理 (1) 基準どおりの施肥を確実にし、樹勢を適正に維持する。 (2) 整枝・せん定を行い、樹冠内部に十分日が当たるようにする。 (3) 地力の維持増強のため、堆肥等の有機物を10a当たり3tを目安に施用。 (4) 雑草の除草は生育期間中最低3回は励行し、養水分競合を少なくする。
7 病虫害防除の徹底	1 炭そ病 (1) 薬剤防除は、早生種で7月下旬、中生種で8月上旬、晩生種で8月下旬に散布する。 (2) 伝染源となる枯れ枝は剪除する。 (3) 整枝・せん定を励行し縮間伐も行い、受光条件を良くするとともに、適正な施肥や土壌管理によって樹勢の低下を防ぐ。 (4) 薬剤防除の効果を高めるため、低樹高にする。 (5) イガや果実に寄生する害虫やクリクマバチの防除を徹底する。 (6) 品種間の発生差は、銀寄、岸根、石鎚で発生が少なく、国見、丹沢は多い。

事 項	推 進 内 容
	2 クリイガアブラムシ (1) 薬剤防除は、雌花開花期から散布する。 (2) 収穫後のイガは園地から持ち出し、土に埋め込み園内の清掃に努める。 (3) 整枝・せん定を励行し縮間伐も行い、受光条件を良くする。
	3 クリタマバチ (1) 薬剤防除は、成虫の羽化・脱出期に散布する。 (2) 天敵(チュウゴクナガコバチ)保護のため、剪定枝を4月末まで園内に残し、5月末までに園外に持ち出し処分する。
	4 クリシギゾウムシ、クリミガ (1) 2014年よりヨウ化メチルでのくん蒸処理となった。生育期間中の防除を徹底する。 (2) 収穫後、取り残しの果実を放置せず、集めて園外に持ち出し処分する。
	8 ナギナタガヤによる省力的雑草防除 1 効果・特徴 草生栽培により、除草労力の軽減、有機物の補給ができる。ナギナタガヤは他の草種に比べ草丈が低い。また、倒伏が早いいため抑草期間が長い。発芽能力が高いため、毎年のは種は不要である。 2 は種時期 9～10月で、早いほうが生育は良く、被覆度が高くなる。 3 播種量 2kg/10a 4 は種方法 は種前には必ず他雑草を吸収移行型除草剤により除草し、その後軽く耕耘すると発芽揃いがよい。湿ったマサ土を増量剤(4～5倍)として混ぜ、均一に散種する。降雨前後が発芽が良い。 5 施肥 窒素成分4kg/10aを10月と2月に分施する。 6 倒伏後管理 単一の草生状態を維持するため、雑草は部分的でも放置せず、除草剤によるスポット散布を励行する。 再発芽が始まる前(8上～下)には必ず除草剤(吸収移行型)を散布する。 7 園内の日照改善に留意する。
9 貯蔵前処理	2005年以降臭化メチル剤の全面的使用禁止を受けて、現状、代替技術として以下の方法がある。 <氷結温度による殺虫法> 十分吸収させたのち水分含量60%に調整したオガクズ2kgにくり20kgを混ぜ0.05mmのポリエチレン袋に入れる。袋の口をたたみこみ、コンテナに入れ、-2～-3℃の低温で16日以上貯蔵する。

事 項	推 進 内 容
10 貯 蔵	＜ヨウ化メチルによる殺虫法＞ 気密構造のくん蒸庫にクリ果実を入れたコンテナを並べ、気化させたヨウ化メチルで2～4時間燻蒸する。なお、ボンベ詰めヨウ化メチルの導入にあたっては、専用気化投薬機や排気装置、並びに排気装置、攪拌機及び操作盤等を十分固定可能で、且つより気密度を高めた一定の要件を満たした固定式くん蒸庫の設置が必要となる。 ＜蒸熱処理による殺虫法＞ 断熱構造の処理庫に、クリ果実を入れたコンテナと蒸熱処理機を入れ、ヒーターで加熱した空気に霧を噴射してできた熱気を処理庫内に循環させ、クリ果実を47℃で40分間蒸熱処理する。 ※ 山口県ホームページの「蒸熱処理によるクリシギゾウムシ等の果実害虫防除マニュアル」を参照 https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/206258.pdf 最盛期には出荷が集中するため、貯蔵によって計画的な出荷と時期をずらすことで価格の維持をはかる。 1 集荷後、直ちに果実温が10℃以下となるよう予冷を行うことで、品質保持効果が高まる。 2 貯蔵前には、病虫害果を除去し、20kgコンテナ単位でポリエチレン袋（厚さ0.04～0.06mm）に入れ、温度0～5℃、湿度80%以上の条件で冷蔵貯蔵する。 3 貯蔵中腐敗果があれば随時取り除く。 4 早生種は発芽が早く、腐敗しやすいため長期貯蔵（2～3か月）には適さない。長期貯蔵には、筑波、石鎚、岸根などが適する。

(4) くり作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
12月～2月			整枝せん定 台木用種子のは種穂木採取貯蔵	幼木は、せん定の程度をなるべく弱くする。 幼木の2～3年間は、逆行枝や重なり枝を間引き、充実した新梢の先端をかるく切り返し主枝候補枝を伸ばす。 4～6年目は、主幹候補の中心部の枝抜きを行い、下枝に光がよく当たり、枝の充実と着生を良くする。 7～8年目で、樹高4m以下になるよう主枝2～3本を残し、主幹部の芯ぬきを行い、開心自然形に整枝する。 成木では、樹高を3.5m以下に抑えるようにし、充実した結果母枝を1㎡当たり6～8本残す。 天敵(チュウゴクオナガコバチ)の保護のため、せん定枝の処分および薬剤散布は4月末まで行わない。 種子はしば栗、栽培栗を用いる。は種の際、獣害対策を十分に行う。 乾燥防止のため、穂木はビニールに包んで冷蔵庫で貯蔵する。
3月	上		防風対策	防風樹の植え付け、施肥および刈込みを行う。
4月	上中	催芽期 雌花分化期 展葉期 新梢伸長期	接木 台芽のかぎ取り	凍害回避のために接木位置は30cm以上にする。 接木方法は、はぎ接がよい。台の大きさに応じて接穂数を増やす。 接木後台芽が発生した場合は、随時かぎ取る。
5月	上中下	新梢伸長最盛期	追肥 接木、新梢の管理 草刈、敷草	樹勢を考慮して発育の不良なもののみ追肥する。 台芽かき及び接穂の支柱結束を行う。また、心抜後の徒長枝の処理を行う。 新植1、2年目は特に必要である。
6月	上中下	開花期	土壌流亡防止 徒長枝のせん除	排水溝の整備、補強など土壌流亡を防ぐ。 樹冠内の日当たりとして風通しを良くするため、強めな徒長枝を間引きせん除する。
7月	上中	雄花分化期	追肥 草刈、敷草	梅雨明け前に施用する。 草刈りは梅雨末期又は梅雨明け直後に実施し、敷草は土壌の乾燥防止に役立つ。

8月	下	早生種成熟	草刈り 収穫、出荷	収穫準備、草刈及び園内清掃を始める。
9月	中～下	中生種成熟	収穫、出荷 秋肥 牧草の播種	落球（果）後は速やかに収穫を行う。 虫害果やイガは、収穫の度に集めて処分する。 速効性肥料を施用する。 ナギナタガヤを2kg/10a播種する。播種初年度のみ窒素成分4kg/10aを10月、2月に分施する。
10月	中下	晩生種成熟	収穫・出荷・貯蔵 間伐・縮伐	貯蔵はポリエチレンフィルムで密封し、0～2℃の低温で貯蔵する。 密植園は、重点推進事項のとおりとする。 隣接樹との樹冠間隔は1m以上空ける。
11月～		落葉期 休眠期	園内の清掃 深耕 苗木の植付 元肥	溝状またはタコつぼ深耕を行い、有機物等の土壌改良資材を施す。 結実をよくするため必ず一列おきに混植すること。 鶏糞を使用する場合、12月から2月に施用する。幼木に施用する場合は、全施肥量の半量程度以下とする。 土壌への浸透性が早い化成肥料を使用する場合は、2月に施用する。

(5) 施肥基準

ア くり成木 10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合 (%)			成分量 (kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
元肥(11～2月)	60	100	75	6.0	6.0	6.0	(1)成木園10a当たり収量250kgを基準とする。 (2)施肥量は地力により10～20%増減とする。
追肥(6月下～7月)	20	—	25	2.0	—	2.0	
秋肥(9月)	20	—	—	2.0	—	—	
計	100	100	100	10.0	6.0	8.0	

イ 10a 当たり樹齢別施用成分量 (kg)

樹齢	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥上の注意
1年生	4	3	3	(1)5年生までは10a当たり30～40本程度とする。
3年生	7	4	5	
5年生	7	4	5	

(6) くり品種特性表

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期
ぼろすけ	茨城県つくば市 農研機構育成 550-40×丹沢 平成29年3月 命名登録	果実は18g程度とやや小さい。「ぼろたん」と同様の剥皮性を有する。果肉はやや粉質で、「ぼろたん」、「丹沢」に比べて、果肉の色は黄色味がやや薄く、甘味、香気も若干少な目である。	樹形は直立性で、樹勢は中程度である。「ぼろたん」とほぼ同じ時期に開花する。	果実はやや小さいが剥皮性が有るので、「ぼろたん」の受粉樹として活用できる。	8月下旬～9月上旬
丹 沢	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現 農研機構果樹茶業研究部門)育成 乙宗×大正早生 昭和34年3月 命名登録	果実の大きさは20g程度、果肉は淡黄色でやや硬く、肉質は粉質で甘味、香気はやや少ないが早生として品質は良い。座は中程度で果実は赤褐色、双子果率がやや高い。	樹はやや開張性で若木でもよく結実する。クリタマバチへの抵抗性は中程度である。雌花の着生は中程度。	肥沃地で集約栽培するのがよい。	9月上旬
国 見	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現 農研機構果樹茶業研究部門)育成 丹沢×石鎚 昭和58年2月 品種登録	イガは偏球形で大きく、離脱容易でイガ落ちすることが多い。果実はほぼ円形、1果重25～30gの大果、果皮色は褐色で光沢があり外観は美しい。果肉は淡黄色、肉質は伊吹より粘質で甘味もやや少ない。	樹勢は中～やや弱く、あまり大木にならない。樹姿はやや開張性、枝の発生密度中程度。雌花の着生は中位で生理落果はやや少ない方である。結果性は中程度。クリタマバチの抵抗性は石鎚程度。	樹齢とともに樹勢が弱くなり小果となる傾向があるので肥沃な土地を選び樹勢維持に努める。	9月上中旬
ぼろたん	茨城県つくば市 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所(現 農研機構果樹茶業研究部門)育成 550-40×丹沢 平成19年10月 品種登録	果実は30g程度と大きく、果肉色は黄色で肉質は粉質、甘味と香気はともに多く、果実品質は優れている。加熱することで剥皮性を生ずる。指で剥皮するため、座にナイフ等で果肉に達する程度の十字の傷を入れ、電子レンジ(700w)で2分間、またはオーブントースター(180℃)で15分間により簡単に剥皮できる。	樹姿はやや直立性で、樹勢は中程度である。結果母枝は太くやや長い。若木から良く結実する。展葉期は他の品種に比べてやや早い。	他の品種にない、渋皮のはく皮性があるので、別販売をするため、品種別収穫ができるように植栽する。他品種同様に交配樹20%程度を混植する。中間台の果実の混入を避けるため高接は行わない。	9月上中旬
筑 波	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現 農研機構果樹茶業研究部門)育成 岸根×芳養玉 昭和34年3月 命名登録	果実は20～25gで銀寄よりやや小形、果肉は黄色で粉質甘味強く、香気あり、品質はよい。座は中で果色は赤褐色である。	樹勢は強く、豊産性であり、樹姿はやや直立形である。枝梢の太さは中、発生密度は中位である。クリタマバチ抵抗性は中、雌花の着生は中程度。	豊産性で貯蔵にも向く品種である。幼木時代の果実は他の品種に比べて小さい。生理的落果はやや多い。	9月下旬
紫 峰	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現 農研機構果樹茶業研究部門)育成 銀鈴×石鎚 平成6年3月 品種登録	果実は25g程度で大きく、果肉は淡黄色で、肉質は粉質、甘味及び香気は中で品質は優良である。	樹勢は強く、若木での伸長は旺盛である。樹姿はやや開張性、枝梢は太く、発生は中である。雌花の着生は中で結果性は良い。クリタマバチ抵抗性は強く、実たんそ病の発生は少ない。	クリタマバチの発生の多い地域において、筑波の代替品種となり得る。	9月下旬
銀 寄	大阪府豊能郡能勢町 偶発実生 大正2年栗品種調査会で名称統一	果実は20～25gでやや大果、果肉は淡黄色で甘味やや多く、品質は優良であるが、渋皮がかん入して加工歩留りが低い。肉質は粉質である。	樹勢は強く、樹姿は開張性である。結果樹齢に達するのは遅いが、樹の寿命は長い。雌花の着生はやや少ない。	土壌が深く、粘質がかった肥沃な所に適する。隔年結果性は少ないが集約栽培でないと成績があげにくい。生理的落果は筑波より少ない。	9月下旬～10月上旬

美 玖 里	茨城県つくば市 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所(現 農研機構果樹茶業研究部門) 育成 石鎚×秋峰 平成23年3月 品種登録	果実は28g程度で、外観が美しい。果肉は黄色で、肉質は粉質、甘味と香気はともに多く、果実品質は優れている。やや裂果が多い。	樹勢は強く、樹姿は中程度である。	高木になりやすいので、整枝せんだ等により樹高を抑制する。また、結実が良く、着果量が増えると小玉となるため、母枝本数を制限する。	9月下旬～10月上旬
石 鎚	茨城県つくば市 農林水産省園芸試験場(現 農研機構果樹茶業研究部門) 育成 岸根×笠原早生 昭和43年1月 命名登録	果実は25g内外で品質はすぐれており、加工用、貯蔵用として適する。果肉は粉質である。果皮は褐色で光沢が多く、座の大きさは中である。	多収性であるがやや樹勢が弱いため、肥沃地で集約管理に向く。樹勢は開張性である。クリタマバチの抵抗性は強、雌花の着生は良い。	半熟果の毬梗離脱が難であるため、台風の影響は低い。筑波、銀寄の受粉樹に好適。生理的落果は少ない。	10月上旬～中旬
岸 根	山口県玖珂郡美和町 偶発実生 大正2年栗品種調査会で西新治氏命名	果実は30g程度で果色は褐色、座の大きさは中程度。肉質は粉質で品質は優良である。	樹勢は強く、樹姿は直立形である。枝条は粗生し、やや太くて長く橙黄色を呈する。葉は大形で下垂する。クリタマバチの抵抗性は強い。	耕土の深い所で良品を産する。貯蔵力が非常に強い。	10月中旬～下旬